

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2370400794
法人名	医療法人 慈照会
事業所名	グループホーム ひまわり
訪問調査日	平成 19年 9月 15日
評価確定日	平成 19年 9月 29日
評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 9月28日

【評価実施概要】

事業所番号	2370400794		
法人名	医療法人 慈照会		
事業所名	グループホーム ひまわり		
所在地 (電話番号)	〒451-0025 名古屋市西区上名古屋二丁目25番3号 (電話) 052-523-3833		
評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	愛知県名古屋市昭和区鶴舞3-8-10 愛知労働文化センター3F		
訪問調査日	平成19年9月15日	評価確定日	平成19年9月29日

【情報提供票より】(平成19年 8月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年6月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	人	常勤	人, 非常勤 人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨準耐火		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	49,500 円	その他の経費(月額)	実費 円(食材費含む)	
敷金	有() 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 150,000 円 無	有りの場合 償却の有無	有() 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1500 円	

(4) 利用者の概要(8月 1日現在)

利用者人数	16 名	男性	1 名	女性	15 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83,4 歳	最低	72 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人慈照会西城クリニック、馬淵歯科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「地域に必要とされる施設でありたい」という法人の基本理念をホームとしても共に掲げ、具体的な目標にもそれが反映されている。利用者を第一に考えサービスを提供して行こうとする姿勢はヒヤリングにおいても、また利用者の暮らしぶりを見ても感じることができるホームである。地域に対しての取り組みは、運営推進会議のほかに「地域交流委員会」を設置し、積極的に行われている。開設から4年が経過し、利用者・職員共に馴染みの関係となり、日々の生活には笑顔が絶えない。今後の取り組みに期待ができるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回評価での改善課題として「夜浴の実施」を取り上げた。実際に行った結果、利用者からの希望がないため、支援には至っていないが、今後も継続的な取り組みに期待したい。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価に対して非常に前向きな対応がなされている。各項目に対して的確な評価がなされており提供されるサービスの質の向上に積極的な姿勢が認められた。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議では、ホームの近況報告や参加者からの質問に対しての質疑応答がなされている。災害時には地域の協力が不可欠であることを念頭におき、ホームへの理解を深めるよう、また、サービスの向上に活かせるよう取り組んでいただきたい。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族の意見や苦情に対しては、すぐに検討し対処されている。行事の際のアンケートや訪問時に家族の意見・要望を聞き取るようにし、更なるサービスの質の向上を目指している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>法人として「地域交流委員会」が設置されており、前向きな取り組みがなされている。地域の行事などには可能な限り積極的に参加され、また、ホーム行事への参加依頼をするなど、地域との連携に向けた取り組みがなされている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体法人が「地域に必要とされる施設でありたい」という理念を掲げられており、ホームもそれを理念としている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人の基本理念・方針は「慈照会品質方針」として明確にされ、ホーム内に掲示されている。また、ホームとしての取り組むべき具体的な目標も「品質目標」として設定されており、管理者・職員ともに取り組まれている。		目標達成のための具体的な施策を明確にされており、積極的な姿勢が認められる。今後とも継続的な取り組みに期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人全体で地域交流委員会が設置されており、地域の一員としての交流に勤めている。運営推進会議も2ヶ月に1回開催されており、活発は意見交換がなされ、地域の行事などにも積極的に参加されている。		ホームとしての目標も設定されており、その目標達成に向けた積極的な取り組みに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	利用者に提供するサービスの改善のために自己評価や外部評価を積極的に活用している。改善に向けた取り組みについては全スタッフで検討する機会を設けるなど前向きな姿勢が感じられる。		前回の外部評価での指摘事項についても改善がなされており、ホームの積極的な姿勢がみられる。今後とも同様の取り組みに期待したい。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、様々な議題が話し合われている。ホームの近況や、様々な取り組みについて報告がなされ、質問にも丁寧に応答されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者の運営推進会議への参加は得られておらず、又、それ以外で直接交流する機会を持つのは難しい状況である。		ホームからの必要に応じたアプローチを行っていくことが重要であると考えられるが、一方的なものにならぬよう検討していただきたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には、利用者の近況や行事の様子を報告されている。月1回発行される「ひまわりだより」は家族に送付されホームでの様子を知っていただくように取り組んでいる。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事の際のアンケートの実施、家族の来訪時に話を聴くなど、運営に家族の意見等反映できるように取り組んでいる。		家族会を実施するよう検討されており、前向きな取り組みが感じられる。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動については利用者への十分な配慮がなされている。職員の交代がある場合は引継ぎを十分に行われ、利用者に影響が及ばないよう配慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材の育成についての重要性をよく認識しており、外部・内部研修への参加も推奨されている。今年より人材育成のための新しい取り組みもなされている。		職員により、毎月ひとりが担当となりテーマを決め自己学習の結果を発表し意見交換を行う勉強会を開催している。職員のスキルアップにはとても有効であると考えられる。今後も是非継続していただきたい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流については、連絡協議会主催の研修会に参加する程度で、それ以上の交流には至っていない。		同業者との交流を行う事によって、情報の交換・共有、職員研修など、サービスの質の向上へと繋がる。ホームの更なるスキルアップのため、今後の検討課題として頂きたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	利用者およびその家族には事前見学していただくようにしている。体験入居期間は設けられていないが、利用者の生活暦などはセンター方式にて把握し早く馴染めるよう家族と相談しながら進めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	訪問調査当日も利用者の方にお茶を出していただくなどそれぞれの役割があり、職員の一方的な介護は見られず利用者との良好な関係がみられた。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	センター方式での生活暦や利用者の意向の把握に努めている。家族との情報交換にも努力されており、前向きな取り組みがみられる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	ケース会議にて職員間での活発な意見交換がなされ、介護計画は利用者本位に作成するように努めている。必要に応じて法人内の専門職に相談できる体制があり介護計画に活かされている。		家族意見を積極的に介護計画に反映させるために、ケース会議への家族の参加を呼びかけている。これまでの家族の参加は2件であり今後増やせるよう継続的な取り組みに期待したい。
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	定期的見直しの実施、定期モニタリング・ケース会議にて変更の必要が認められた場合、随時更新する体制がとられている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人内の他施設を利用するなど、利用者およびその家族の状況に応じた柔軟な対応が出来るよう努められている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望を聞き、かかりつけ医・法人内の医療機関での受診ができるように支援している。また、法人内の医療機関へは職員が代行での付き添いに対応している。		今年7月より医療連携体制を整備され、協力医療機関の担当看護師と連携し24時間対応できるようになった。このことは利用者や家族の大きな安心材料となっている。
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に関する意向の把握は確認はしているものの明確な回答は得られるには至っていない。判断が必要な時期には家族および医師との話し合いが行われている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人としてISO・Pマークを取得しておりプライバシーの確保について問題はみられない。個人情報の取り扱いについては一回/月のパトロールが行われており、ホーム全体をみてもその意識は高い。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者ひとりひとりの暮らしぶりは穏やかでその人らしく生活できるよう配慮が感じられる。		利用者ひとりひとりに対し十分な対応が出来る様取り組んで行きたいとの思いがヒヤリングにより確認できた。職員の人数にも限りがあり可能な範囲での継続的な取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の希望を聞きながら、職員が作成している。調理や盛り付けは利用者と職員と一緒にいき食事と同じテーブルで取られている。訪問当日も楽しそうに食事を摂る利用者の姿をみることができた。		利用者の能力を発揮できる場となっており今後も同様の取り組みを継続していただきたい。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間帯などは利用者の希望にあわせている。日曜日を除いては毎日の入浴が可能となっている。		前回評価時の課題とした項目である。夜の入浴にも対応したが現在は利用者の希望がない。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、利用者のできる事・できそうなことは声かけ・見守りに徹し、利用者の積極的な姿勢を引き出すように、努めている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に沿って、散歩や買い物など外出の支援がなされている。また、定期的にバスツアーが催され、利用者の楽しみの一つとなっている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	市街地にあることにより、玄関などは施錠されている。施錠に対しての根拠は家族にも説明されており了解がえられている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の対応は「消防計画」に規定されており、日中・夜間を想定した防火訓練や震災訓練も行われている。		災害時には地域の協力が不可欠である。運営推進会議での検討もなされており、継続した取り組みとして頂きたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のメニューからは栄養バランスに問題は見られない。水分摂取量や食事量も把握されており利用者の状況により刻み食やトロミ食など対応がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは清潔に保たれており、空調も快適であった。季節感のある装飾もあり、利用者のくつろいだ姿をみることができた。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の理解・協力を得て、馴染みの家具・好みのものなどが持ち込まれており、利用者が安心して過ごせる空間づくりへの支援が感じられる。		